

医療機器が新しくなりました

当院では、医療機器の更新を行いました。これにより、「より正確に、より迅速な」医療を行なってまいります

新たに導入する医療機器の紹介をさせていただきます。

シネアンジオ・血管造影装置

東芝社製最新型「infinix・celeve-i」です。FPD(Flat Panel Detector)搭載により高精細な撮影が可能となります。

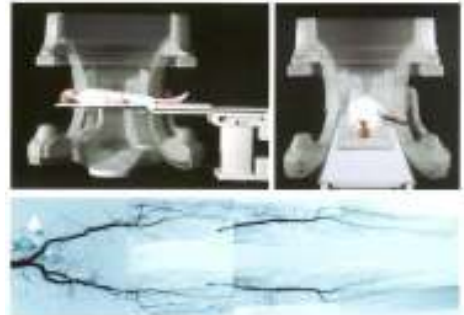
冠動脈形成術(PCI、ステント植込み術)、下肢血管形成術に際し、より高度な診断・治療ができるようになると考えています。

5つの回転軸が
思いのままのポジショニングを実現



従来の常識を打ち破る ワイドな検査範囲

従来の床置き式Cアームではの常識を打ち破る、ワイドなCアームポジション。上肢だけでなく下腿までも、カテーテル台根を移動することなく検査範囲を確保できます。THIからPeripheral Interventionまで目的を選びません。



検査効率が向上する AutoRotation 機能

複雑なCアーム角度でも、検出器とX線絞りを最適な角度で自動保持。患者と画像の回転を抑え、常に適切なオリエンテーリングを提供します。



簡単に退避できる パークポジション

Cアーム支柱回転軸を利用することで、Cアームをカテーテル台から離れた場所へ退避させることができます。患者の入れ替わり時も、安全に作業を進められます。



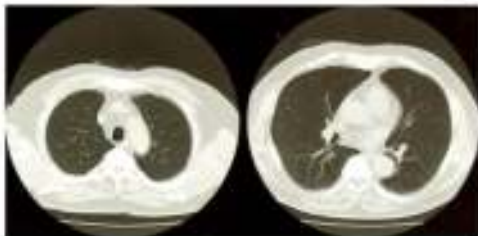
16列 MDCT 装置

撮影時間が短縮され、かつ、従来よりも多くの情報が得られます。より正確な診断ができるようになり、

特に下肢動脈疾患(PAD)の診断に役立つと考えています。

● 従来比40%の被ばく低減を達成

撮影前にあらかじめ画質(SD)を指定し、それを指標としてX線量がコントロールできます。したがって、診断に必要な画質を得るために必要な最低限の線量で撮影が可能です。Real ECを使用することで、約40%もの被ばく低減が実現できます。



患者さんにやさしい低寝台

お年寄りやお子様でも容易に寝台に乗れるよう、寝台高を床約31cmまで下げることができます。また、緊急・緊急時にも、ストレッチャーから寝台へとスムーズに移し替えることができます。

撮影範囲1800mmのロング寝台

撮影範囲最大1800mmのロング寝台を採用しました。緊急検査の場合でも、患者さんの体位を移動させることなく、そのまま全身が撮影できます。また、足側からガントリへ挿入するフットファーストポジショニングが可能なので、ガントリ内を通さない輸液ルートが確保できます。もちろん、患者さんにはより安心して検査を受けてもらえます。

